

令和3年度「未来を創る学力向上支援事業」に係る
未来を創る授業力向上協議会(外国語)

【目的】各中学校及び義務教育学校後期課程の外国語科代表の教員を対象に、言語活動の充実に向けた授業改善や、新学習指導要領を見据えた授業づくりに関する説明・講義等を行うことにより、外国語科教員の授業力向上に資する。

【期日】令和3年6月30日(月) 13:30~16:20

【主催】大分県教育委員会

【会場】J:COM ホルトホール大分

1. 武野課長より

令和3年度大分県立高等学校入学者選抜学力検査における英語の平均点は25.8点で昨年度から9点下がっている。特に得点が1桁台の子どもたちに、英語の学力保障がされているかということについて、もう一度考え直す必要がある。



2. 行政説明「言語活動の充実に向けた英語科における授業改善」

義務教育課 田代和馬指導主事

- ・授業に占める言語活動の割合 50%以上の大分県教員 80.4%(R4 英語教育実施状況調査)
- ・言語活動は行うことそのものよりも、その先にある資質能力を育成することが重要。知識・技能を活用させ、思考・判断・表現を育成するために取り組むこと。そのため、子どもたち自身にしっかり考えさせるために、言語活動の際「与え過ぎ・教え過ぎ」を極力控える。

(知識・技能) 概要・要点・必要な情報を捉えさせるための活動(聞く・読む)

(思考・判断・表現) 考えなどを形成させ、表現内容を考えさせ、表現する活動(話す・書く)



動画視聴 東京都：井上先生 2年生

- ・子どもたちを枠にはめるのではなく、必要な支援のみを行い、子どもたち自身の力で考えや思いを伝えられるような指導の事例。大きな視点を与え、授業全体を通して、絶えず生徒とやり取りをしている。

3. 講義 「新しい学習評価から英語科の指導のあり方を考える」

国立教育政策研究所 教育課程調査官 山田誠志 氏

- ・中学校の授業は楽しく意欲的に取り組ませ、面白く、かつテストの点をとらせるものでなければならない。そのため、教師には柔軟性が必要。

ワークショップ1 【聞く・読む】を3つの観点でどう評価するか。

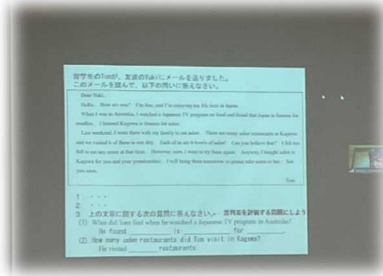
「知識・技能を問う問題」とは、話されたり書かれたりしている事実そのものを問うもの。

「思考・判断・表現を問う問題」とは目的・場面・状況に応じ、必要な情報・要点・概要等を問うもの。

・「概要」を捉えさせるためには、生徒が授業で教科書を読む段階から、テストを受験するに至るまでに、目的をもって計画的・継続的に指導を行い、力をつけさせる。

- ・「要点」を捉えさせるためには、目的・状況によって解答が変わるものであることを教師が理解した上で、ねらいをもってそれに応じた問題設定をしたものを答えさせる指導が必要。目的・場面・状況は通

常,問題文の前に示されるリード文に表れるので,それを読んで理解した上で解答するよう指導する。



ワークショップ2 教科書を利用した【思考・判断・表現】の問い

- ・内容に関わらせながら,生徒たちの身近なものに結び付ける。
- ・多くの教科書では,掲載している Q&A に取り組ませれば,【思考・判断・表現】の問題に触れさせられるつくりになっている。
- ・題材・言語材料・教科書本文にある Q&A を新しい Lesson に入る前に確認すること。【思考・判断・表現】に該当する問題がない場合は,自分で考えて設定することが必要。

教科書1ページに基本文が複数載っている場合

- ・どちらか一方にしぼって指導を行い,もう一方は単元終末または帯活動で扱っていく。

単文レベルが読めない生徒への対応

- ・英文を文頭から読み,語順感覚を捉えさせる。中1教科書などから文を引用し,帯活動などで毎時間取り組ませる。

4. 協議 「一人一台端末を活用した英語科の授業実践」

- ・端末活用の実践事例交流

